

県連ニュース

2008年5月1日発行
栃木県勤労者山岳連盟

第1回各会代表、正副会長および理事合同会議報告・・・	1
読図講習会(初級)の開催のお知らせ・・・	3
県連ハイキング楽校 第12回実技山行 安達太良山・・・	4
県連ハイキング楽校 第13回実技山行 那須岳・・・	6

08年度 第1回各会代表、正副会長および理事合同会議報告

08.4.21

栃木県勤労者山岳連盟

出席代表者 昌子 有(宇都宮山の会) 大森幹夫(宇都宮HC) 今野善伸(野木山想会) 川上義尚(上三川HC) 栗崎裕之(宇都宮アソシエイトクラブ) 森 初芳(クラブマウントアソシエイト) 大貫潜路(栃木遊好クラブ)
出席理事 八木沢昌通、竹内 律、吉岡昌徳、神村博忠、小嶋利武、菊池栄治、横屋昭典、松山久夫

1、各会代表者の紹介

2、今年度事業の具体化について 各部局委員会より

、事務局

4月3日県連事務局において事務局管理委員会を開催し、協議の結果、事務局の出入り口の鍵を替えることとした。周知期間の長短や難易などから、変更については、宇都宮HCに一任した旨、報告された。

事務局の草刈りを、以下の予定で行うこととした。

日時 7月5日(土) 8:00~12:00

作業できる服装で参加してください。道具は準備しなくても良いです。

組織部

09年1月の北関東三県交流ハイクについて、具体的な内容を10月の理事会までに報告することとした。なお、会議中、三県交流の場所として、みかも山、古賀志山 篠井連峰が候補として挙げられた。

教育部

読図講習会の実施について 詳細は別紙お知らせに掲載してあります。

栃木県勤労者山岳連盟 発行責任者：田村宣男 編集責任者：橋田弘一

321-0345 宇都宮市大谷町1109 TEL 028-652-4694

<http://www.geocities.jp/tochigirosan/>

沢登り講習会 以下の予定で実施します。

日 時 7月27日(日)

集合の時間と場所 午前6時に深山ダム堰堤手前

内 容 井戸沢での沢登り

対象と募集人数 初級岩登り講習会体験者 20名

沢登り未経験者・初級者を対象に、沢登りの楽しさを体験

申込期間 6月9日より7月20日

申込先 各会とりまとめて、教育部 竹内まで

電話番号などは、読図講習会のお知らせを参照してください。

自然保護部

4月24, 25日 足尾植樹祭の参加人数を、野木山想会の望月理事まで報告してください。

6月1日(日)クリーンハイクについて

実施コース、参加人数、可燃ゴミ、不燃ゴミの別を野木山想会の望月理事まで報告してください。

温泉ヶ岳付近の登山道整備について、以下の予定で実施します。

実施日 5月31日(土) 6月1日(日)

参加形式は、(1)5月31日の日帰り参加 (2)両日の泊まり込み参加 (3)6月1日の日帰り参加 の3形態になります。

集合場所と時間 (1)と(2)は 31日金精トンネル駐車場に9:00集合のこと

(3)は1日に念仏平避難小屋へ遅くとも10時までに来てください。

10時より前であれば、何時でもかまいません。順次作業現場まで、上がってください。

作業内容 登山道の草刈りです

用意するもの (1)と(3)は、日帰り山行の装備服装で参加してください。

(2)は避難小屋泊のできる装備服装で参加してください。

作業に必要な用具は、自然保護部で準備します。

携帯トイレの携行推進について

菊池理事より携帯トイレについて、実物を見せながら、使い方、入手手段、販売先などの詳しい説明があり、携帯トイレが各会に1セットずつ配られた。

今後、携行を推進するために、交流集会やクリーンハイクなどで周知することとした。

救助隊

4月23日 救助隊会議を開催するので、各会より1名以上参加していただきたい旨、要請があった。

3、三役人事について

第1回理事会において要請していた、増田俊雄氏の副会長就任について、本人の受諾があり、副会長として正式に選任された旨、報告された。

その他、三役人事について報告があった。

次回理事会は、6月9日(月)午後7時30分より 雀の宮地区市民センターにて

読図講習会(初級)の開催のお知らせ

磁石の使い方、山での行動半径がぐっと広がる

主催：栃木県勤労者山岳連盟 主管：教育部

山屋だったら、2万5千分の1の地図はいつも身近において、山登り。学んだら実践、今どこにいるのか、これからどっちに行けばいいんだろう？ 特に下りは要注意。

誰もが持つ素朴な疑問。そんな皆さんの不安を解消し、野山をワンダーフォーゲルするため、まずは、読図の「い・ろ・は」を学ぼう。

講師：宇都宮ハイキングクラブ会員

日時・場所

2008年6月8日(日) 午前9時00分～午後3時30分

場所：宇都宮市篠井(しのい)地区市民センター、篠井連峰

宇都宮市冒険活動センター会議室が取れませんでした。冒険活動センターからは、西に500mの位置にあります。

日程

・午前9時00分～正午 机上学習(宇都宮市篠井地区市民センター 会議室)

机上学習後、冒険活動センターへ移動(車で5分、歩いても15分)各自昼食

・午後1時～午後3時30分 野外(篠井連峰)で実技学習

もってくるもの

コンパス、定規(40cm以上)、赤ボールペン、筆記用具、昼食

地図(25,000分の1下野大沢の地図)は事務局用意、県連費で負担します

服装

ハイキングの服装、雨具

雨のとき

多少内容を変更しますが、実施します

申し込み・定員

各会とりまとめ、教育部竹内まで、電話・fax、メールで、定員(50名)になり次第締め切ります。
(最終締め切り5月31日(土))

メール：栃木県連盟 ML へ、又は電話・fax:028(661)1091 竹内 自宅

宇都宮市篠井地区市民センター 028(669)2515

日光街道を北進、船生の標識(冒険活動方面)は右折せず、日光方面へ直進。

次の信号(「林業センター」の表示があるT字路)を右折500m、左手の篠井小学校前を左折、小学校から100m。

(県連ハイキング楽校)

第 12 回実技山行～安達太良山～

～雪上歩行法、滑落停止法～

日 時：2008 年 03 月 9 日（日）：参加者 25 名（講師含む）

天 気：晴天

コース：宇都宮 IC 二本松 IC 奥岳温泉 ゴンドラ・・・仙女平分岐付近の北斜面・・・スキー場・・・奥岳温泉・・・岳温泉（入浴） 二本松 IC 宇都宮 IC 往路 帰宅

今回の実技講習の主なメニューは下記の 3 項目です。

- (1) 雪上歩行技術（踏み付け・叩きつけ・蹴りこみ等の基本、急傾斜でのダイヤモンド歩行）
- (2) 雪崩事故防止技術（弱層テスト）
- (3) 滑落停止、急斜面でのメンバー滑落フォロー法（自己ピレイと確保法）

天候に恵まれ、雪のコンディションも程ほどで、講習の主なメニューを実施でき、充実した実技山行となりました。本当に素晴らしい天候で、山頂に立って 360 度の展望を観れなかったのが心残りでした。

以下、ハイキング楽校生の感想文を読んでください。

< 第 12 回安達太良山実技講習山行感想文 > 宇都宮 HC 小野田文明

野木～石橋と寄って、生徒を乗せたバスが大谷にやってきた。大谷 6 時半出発。参加者は大貫先生を入れて 25 名。4 班に分かれた。皆さん早朝から参加ご苦労様。天気は快晴。暖かく風もふんわりとして柔らかく丸みを帯びています。雪山の訓練は初めてですが、皆さんの行いがよかったですよねえ。青～い空と真っ白な乳首山・・・ネーミングもいいが、コントラストも最高だ～。ゴンドラに乗って薬師岳山頂駅に着くと、雪の厚みが違ってきます。どのくらい積もっているのか、夏道はどこか、まったく見当も付きませんが、結構しっかりとつぼ足で歩けます。深く入っても 5～10cm です。仙女平分岐まで、楽々と登って行きました。そこから未踏の北側の斜面に登ってよいよ講習開始です。

勾配は 35 度前後、斜面に平行の歩き方、斜め上方又は下方への歩き方、直登したり下ったりのキックステップも、バランスよく安定してできるようになりました。今日の雪質は、かなり締まっているものの、手に握るとさらっと崩れる感じです。滑落停止法は、何も持たない状態の、体だけの抱え込みや、ニー&フット、ハンド&フットなど、急場に合わせた方法がありましたが、いかに早くその姿勢が取れるかが、最重要課題でした。

ピッケルを使っての停止法は、斜度 50 度前後のかなりの急斜面の所で行いました。仰向けで滑落したときに、「素早くうつぶせになりながら、ピッケルを斜面に打ち込み、両足は斜面から上げて、なお、ピッケルのブレードが胸の下にあり、片方の手はシャフトを持って腰の位置にあって、両肘が体につく状態にする」など、文章にすると長くなりますが、瞬時の一連の動作が要求されました。皆さん真剣に受講して、たちまちマスターして止まれるようになりました。ほんとだよ～。

「いつでもピッケルは山側に」、が、ピッケルを持ち歩く「基本」だそうですが、2～3 歩いて、方向転換すると、もう忘れてしまうのが・・・私だけだったようです。対風姿勢も、登りは簡単にできますが、下っているときには、体を反転しなければなりませんから、これもまた素早い動作が要求されます。両足と、ピッケルが三角になるようにするのがポイントでした。滑落は、命にかかわることだけに、教える先生も、皆さんも真剣でした。

昼食後は、雪崩発生を知るための、雪の弱層テストを行いました。見た目では弱層がわかる場合もあ

りますが、指で触ってのハンドテストも、行いました。シャベルテストも行いましたが、雪の層は思った以上にしっかりとっていて、両手で抱えて手前に引っ張るテストでは、うんこらしょっと、力を入れても取れません。今日の雪の状態は最高に安定していました。

本日最後の講習は、ロープを使っての、滑落確保法でしたが、雪の中にさしたピッケルでの自己ビレイは、簡単に抜けてしまいそうでしたが、意外にしっかりとっていました。ポラード法は、スコップで雪を取り除きましたが、足で踏んで雪の塊を作っても良いそうで、お尻が冷たかったが、これはバッチリと確保ができました。又、ひとつの方法として、ブーツアックスビレイは、片手で簡単にしっかりと確保できるのには驚きました。

本日最後の講習は、ロープを使っての、滑落確保法でしたが、雪の中にさしたピッケルでの自己ビレイは、簡単に抜けてしまいそうでしたが、意外にしっかりとっていました。ポラード法は、スコップで雪を取り除きましたが、足で踏んで雪の塊を作っても良いそうで、お尻が冷たかったが、これはバッチリと確保ができました。又、ひとつの方法として、ブーツアックスビレイは、片手で簡単にしっかりと確保できるのには驚きました。

ピッケルごと足を持っていかれるかと心配でしたが、靴の中心より少し後ろ側にピッケルがあるのがポイントで、相手を見ながら、余裕で確保でき大変良い方法でした。滑落は、いつでも、どこでも起こることですから、滑落停止法は、機会あるごとに反復練習の必要があると感じました。特に雪の表面が凍ったときに発生しやすいですから、そのころにもう一度体験したいと思いました。

朝早くから15時頃までの長い時間、大貫C.L、各班長さん、大変ご苦労様でした。命にかかわる有意義な講習、お世話になりました。

しっかりと頑張った帰りのバスの中で、「私が楽校の生徒の最年長でしょう。今日は疲れました」と隣席の手塚さんに話したら、なんとなんと私より3年先輩でした。手塚さんの澁刺とした若さに乾杯！！

<各班のブーツアックスビレイ訓練の様子>



1 班の皆さん



2 班の皆さん



3 班の皆さん



4 班の皆さん

(ハイキング楽校)

第 13 回実技山行～那須岳～

～雪山総合実技訓練～

日 時：2008年4月6日(日)：参加者23名(講師含む)

天 気：晴天

コース：宇都宮 IC 那須 IC 大丸温泉 P・・・スキー場上部付近茶臼岳東南斜面・・・大丸温泉 P (入浴) 那須 IC 宇都宮 IC 往路帰宅

第5期ハイキング楽校もいよいよ最後の実技講習です。今回は5月連休の立山有志山行を想定した総合実技訓練で、主なメニューは下記の3項目です。

- (1) 雪上歩行技術(ダイヤモンド歩行)
- (2) 耐風姿勢、滑落停止、メンバー滑落フォロー法
- (3) 固定ロープによる灘場通過、メンバーの確保法

予約していたバスにトラブルがあり、野木、石橋、大谷から各々車に分乗して、那須大丸駐車場に集合した。

大貫C Lから実技講習の手順や場所についての説明があり、当初予定していた郭公沢から雪の状態や天候を考慮して、ファミリー スキー場の上部付近の東南斜面に変更するとのことであった。共同装備を分担して、那須大丸駐車場に近くよく見えるスキー場の上を 目指してスタートした。

<雪上歩行、耐風姿勢訓練>

大貫C Lと八木沢S Lから、それぞれの姿勢でのピッケルの持ち方、方向を変える時の安全な手順などについての指導の後、5月の立山を想定して、各班ごとに急傾斜での登降訓練、ダイヤモンド歩行訓練および 耐風姿勢訓練を入念に行った。

<滑落停止、メンバーフォロー法>

滑落停止訓練では、滑落した瞬間にピッケルを雪面に刺す操作が可能ないように、危険な場面に遭遇した場合には、常にバランスを崩したらどうするかを想定してピッケルの持ち方や歩き方の訓練を行った。そして、実際に滑落して止める訓練では、雪や氷を刺すピックに重心をかけ、シャフトの先を腰から離さない 用にピッケル操作をする訓練を入念に行った。

また、メンバーが滑落しそうになった場合、どのような位置取りならメンバーの滑落をフォローできるのか についての指導を受けるなど・・・あっという間にお昼に・・・。

<固定ロープによる灘場通過訓練>

お昼休憩の後、アイゼンを装着して、より急傾斜の斜面に移動して訓練を再開した。

急斜面の上と下に固定ロープを張り、マッシュャーを使って登降する訓練を行った。班毎に分かれてまず、雪面に刺したピッケルを支点にして、一人がスタンディングアックスピレイでトップを確保して トップがロープとスノーバーを持って急斜面を登り、上部に固定して、他のメンバーがマッシュャーを使って登降する訓練を交替しながら行った。

<メンバーの確保法訓練>

次に、トップ(セカンド)を確保する方法(スタンディングアックス、ブーツアックス、ヒップアップアックス)の訓練を行った。実際には現場の状況の応じて、どの方法かを選択することになる。実際にメンバーの落ちるスピードがでるとその衝撃で、支点のピッケルが抜けそうになり、あわててピッケルの 周りの雪面を踏み固め、深く突き刺して支点を作り直すなど雪の状態に応じた適切な対応が不可欠であることが 実感できた。

第5期ハイキング楽校最後の実技山行は、天候に恵まれ雪のコンディションも程ほどで、十分な講習時間を取れたこともあり、 主なメニューを実施でき、充実した実技山行となりました。



1 班の皆さん

2 班の皆さん

3 班の皆さん

4 班の皆さん

最後に、大丸温泉駐車場で、楽校生を代表して挨拶をしてくれた佐々田さんが感想文を書いて下さいましたので、感想文を読んでもください。

< 第 13 回実技山行感想文 >

「那須実技山行を終えて(2008年4月6日) ~ 超初心者より」 マロニエHC 佐々田 トシノ

朝の出発時、何の行き違いか、バスが約束の時間に迎えに来てくれず、急遽(野木・石橋・大谷)の各地からマイカーに分乗して大丸温泉駐車場で集合との変更伝令が入る。

でも、回りの仲間達の動向は、さすが自然相手のベテラン揃い!! テキパキと配車を決め、人員を振り分けていて、すぐさま出発となる。なんと沈着に感じられるものだなあと感心する。

ただ、現地に着くときれいな雪や好天気にも恵まれての訓練は、ややもすると気持ちの隙間に、少し弾んだ楽しいような気が起きてくる。それに、山について技術的な能力が無知な分だけ、斜に構えた目で見渡していると、シャベルを担いで黙々とトイレの設営をしている男性陣や、共同装備の重たいであろうロープの荷下ろしたり、スリングにロープやカラビナを装着している姿などに、いたく男らしさを感じたりしていた。

でも、実際にダイヤモンド雪山歩行訓練に入ると、思い通りにならない身体の動き、片足がズズッと滑り、気を取り直して、山足・谷足・ピッケル操作を続ける。次の訓練に入っても、ピックの向きは・・・、マッシュャーロープを握っちゃったら・・・、滑落を停止できなかつたらなどなど不安がいっぱいの精神状態であった。

・・・(訓練詳細は略?!) ・・・

第5期ハイキング楽校最後の実技を終え、雪の那須岳から(尻制動など楽しみながら)大丸温泉駐車場まで降りてきた。訓練とはいえ、まずは全員が無事に終了できた事にホッとして、気持ちが緩む。そして、この最終実技が終ったという事は、怖くて不安な思いのする山行も終った事なのだと思うと、初心者の私は、人知れず安堵と大きな開放感をも同時に味わっていた。

そして、ここからは老いの独り言を・・・。

岩や雪が中心のハイキング楽校の後期メニューは、私にはレベルが高すぎたをつくづく思っている。というのも、ピクニック程度の経験しかないのに、「訓練をすれば2~3年は、山寿命が延びるよ」との言葉の甘さに「そうなのかぁ!」と目からうろこが落ちた気になって、6?歳の遅すぎた山デビューだった。その自分の軽拳判断を 本当に猛反省している。

但し、反省はしても、後悔をした訳では全く無いのですよ! 何故か、辞めようとは思った事は一度も無かったの! それは、先生と仲間達とに大きな確かな手応えを感じていたからです!!

基本的には自己自立の姿勢でも、自分も仲間をも同じ様に身を守る、助け合うという指導を随所で目の辺りにして、とても感動していた。長くいた(遊びとはいえ)皆がライバルというダンスの世界では、ついぞ感じられない手応えだった。

何人も、私の様子に気づいてくれて「楽しいでしょ」「良く頑張ってるね」「大丈夫だよ」

「不安は皆な同じさ」等と声を掛けてくれたり、アドバイスをくれたり、気持ち良く用具を貸してくれたり・・・etc

そんな事に、山の技術以上に(?)人間的に魅せられて、居心地が良かった。触れていたかった。この那須山行が最後だなんて、淋しくも思っているけど、もうやらなくても良いんだと、ある種ホッともしている。私なりにカー杯、岩や雪の山と過ごしてきた歴史には、そっと別れを告げるけど、これからの老後という未知の世界に向かって、老いを嘆かず、新しい道を、あちこち覗き見しながら、歩いていくつもりでいます。

色々とお世話になりました。本当に有難うございました。ここには、とても表しきれない程の感動と感謝の気持ちを持ったまま。

了

・・・ささだ・・・記